



神奈川県青少年赤十字 減災セミナー教材

減災セミナーの活用方法	1 ページ
指導案およびワークシート	
Ⅰ 災害の実態を知る	3 ページ
Ⅱ 災害を考える	16 ページ
Ⅲ 災害前に準備しておくこと（非常持ち出し品と連絡方法）	31 ページ
Ⅳ 教室の中の安全チェック（ハザードマップ作り）	38 ページ
Ⅴ 健康安全プログラム（救急法実技）	42 ページ
Ⅵ 避難所体験	43 ページ
Ⅶ まとめ（自助・共助・公助）	47 ページ

平成 27 年 3 月 31 日

神奈川県青少年赤十字指導者協議会研修検討部会

減災セミナープロジェクトチーム

日本赤十字社神奈川県支部

学校での防災教育支援プログラムを提供します

児童自身が自分の事として取り組める「減災行動」に焦点を当て、児童自身が生活の中で潜在的な危険に気づき考え、防災意識を高めるための教育支援プログラムです。

特徴

- 教育現場での経験豊かな青少年赤十字指導者（学校教職員）が考えた授業で使えるプログラム
- 教職員が授業の中で活用できる自由度の高い教材を提供
- 参加型ワークを中心とした児童自ら考えるプログラム構成
- 様々な単元を自由にアレンジし単発でも組み合わせても展開可能
- 災害救護の経験豊かな赤十字職員や赤十字ボランティアを派遣可能

活用方法

例１ 教材としての活用

担当教員が本プログラムを教材として活用し教員自身が授業として実施

例２ 出前授業として活用

救急法や体験談などに赤十字職員や赤十字ボランティアを外部講師として派遣
担当教員がご自身の方法で導入やまとめもおこなえます

費用は無料

※選択するプログラムの内容により教材費実費・送料等が必要な場合があります

活用例

例1「災害に備えて身の回りの危険をチェック」

- ・災害について：教材を活用し教員が実施
- ・教室内の安全チェック：教材を活用し教員が実施

例2「災害に備えて何が必要？」

- ・災害の実態：赤十字から外部講師を呼び実施
- ・非常持ち出し品と連絡方法：教材を活用し教員が実施

例3「身の安全と応急手当」

- ・教室内の安全チェック：赤十字から外部講師を呼び実施
- ・三角巾の応急手当（健康安全プログラム）：赤十字から外部講師を呼び実技

プログラムメニュー

～災害について～

- I 災害の実態を知る
- II 災害を考える

～事前の備え～

- III 災害前に準備しておくこと（非常持ち出し品と連絡方法）
- IV 教室の中の安全チェック（ハザードマップ作り）

～災害が起きたときに～

- V 健康安全プログラム（救急法実技）

～発災後に行うこと～

- VI 避難所体験

～まとめ～

- VII 「自助・共助・公助」、「減災」とは

講師派遣の申し込み先

日本赤十字社神奈川県支部 青少年・ボランティア課あて、
電話またはメールにてご連絡ください。

日本赤十字社神奈川県支部 青少年・ボランティア課

〒231-8536 横浜市中区山下町70-7

TEL 045-681-2123（代表）

FAX 045-681-1120

Eメール kanagawa-rc-volunteer@kanagawa.jrc.or.jp

この教材は日本赤十字社神奈川県支部ホームページ
ダウンロードが可能です。 <http://www.kanagawa.jrc.or.jp/>



I 災害の実態を知る

1. 目的 導入として、過去の大震災の記録を元に災害現場の様子などを伝え、災害について知る。また、災害によって自分たちの生活がどのように変わるのかを知る。
2. 所要時間 45 分～50 分
3. 資材・資料 災害の実態を知る「資料スライド（過去の災害時の写真）」やDVD「東日本大震災救護活動記録」など
4. 学習展開

事前指導【知る】	災害時の写真，DVDからの気づき【実践】	事後指導【深める・高める】
避難訓練の時に心がけること「お」「か」「し」「も」、「うごかない」「たおれてこない」場所に身を素早く行動することを考える。	地震が起きた時の様子を見て感じたことや気づいたことを話し合う。そして、万一の時にも、落ち着いて行動できるようにする。	実際の避難訓練の際には、どこにいてどのように避難することができたか、困ったことはないかなどを話し合い、今後に生かすことが

学習活動	教師の支援
<p>事前指導【知る】</p> <p>○「地震発生！そのとき、あなたは？」 いつ、どこで起こるか分からない地震 → 地震に対応できる知恵を身につける。</p> <p>○地震は様々な災害を引き起こす → 具体的な被害状況を知る。</p> <p>○日本は世界有数の「地震国」 → 世界の地震の約10%が、日本やその近くで起こっていることを知る。</p> <p>→ 安全な場所は？ 「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所へ身を寄せることを知る。</p> <p>→ 海のそばでは津波がやってくる → 塀のそばでは倒れる恐れがある</p>	<p>●[学校にいるとき]避難するときの心構え ・[登下校中に] 通学路の安全のチェック ・[家にいるときに]家具の転倒、閉じ込められない、ガラスが割れる、などに注意する</p> <p>●「 」小学校学区の危険箇所は？</p> <p>「世界の地震分布図」(昭和63年から平成19年)マグニチュード5.0以上、深さ100kmより浅い地震が起こった場所</p> <p>●家具類の転倒・落下による負傷者の割合 資料(東京消防庁)</p> <p>●ライフラインがだめになる。 (電気、水道、ガス、道路、食料など)</p> <p>●津波と地震後に発生した火災による被害</p> <p>●登下校路や自分の家の周辺は？</p>
<p>事後指導【深める・高める】</p> <p>○被災後の生活は？ → 「避難所での生活」を想像してみる。</p>	<p>●困ったこと、心配なことなどについても意見を出し合わせる。</p> <p>●とても不便、不自由な生活が毎日続くことになる。(気づき)</p>



神奈川県青少年赤十字減災セミナー

I 災害の実態を知る 資料スライド

神奈川県青少年赤十字指導者協議会

○地震をはじめとした災害が発生すると色々な被害が出ます。

ここでは、地震を例に、災害が起きたときに自分たちの生活がどのような影響を受けるのかについて考える機会とします。



過去の地震からの教訓



関東大震災は「火災」



阪神・淡路大震災は「倒壊・家具の転倒」



東日本大震災は「津波」

横浜市消防局発行 減災行動のススメより

『過去の地震から学ぶ教訓』

○過去の地震災害の特徴を知ること、何を備えればよいか考えることができます。

○関東大震災では

死者の約8割が地震後に発生した火災が原因で亡くなったといわれています。
この地震の教訓は「火災」でした

○次に、阪神・淡路大震災では

死者の約7割が、建物の倒壊や家具の転倒が原因で亡くなったといわれています
この地震の教訓は「倒壊・家具の転倒」でした

○最後に、東日本大震災では

地震発生から32分後に岩手県大船渡市の沿岸に約8メートルを超える大津波が到着するなど、多くの方々が津波で亡くなりました。
この地震の教訓は「津波」でした



『関東大震災』

関東大震災は火災で多くの方が亡くなりました。

○当日は昼食の準備時間であったこと。家が燃えやすい木造だったことから火災による大きな被害が出ました。

最近の家は燃えづらく、また機器の安全性が高まり、火災は少なくなると予想されていますが、出火すれば大きな被害となります。

『阪神・淡路大震災』

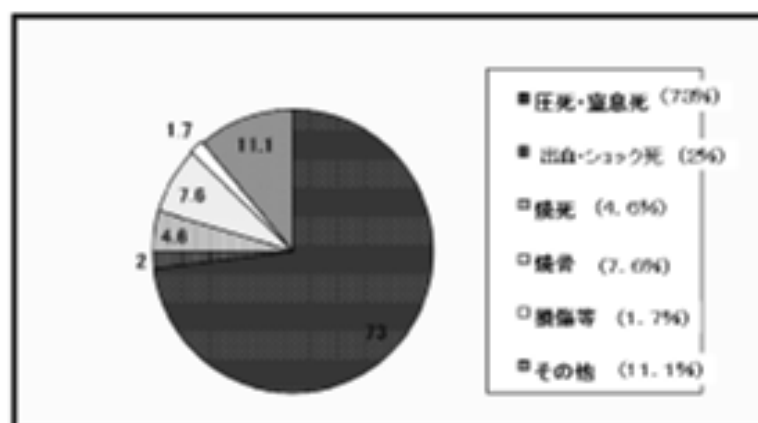
○次に約17年前、1995年(平成7年)1月に発生した、阪神淡路大震災の写真です。都市部で発生した地震災害で神奈川県で起きる被害状況が近いと思われます。

○阪神・淡路大震災では、古い木造の住宅がつぶれてしまったり、倒れた家に閉じ込められたり、家具の下敷きになって亡くなった方や、同時に多くの場所で起きた火事によって多くの方が亡くなりました。

○この震災を契機に建築基準法が改正されるようになり、今では当時より家屋の被害は出ないようになっています。

○次にこの地震で亡くなった方々の死亡原因について話を進めます。

神戸市の地震被災者の死亡原因



神戸市発表の概要から

『神戸市の地震被災者の死亡原因』

○阪神淡路大震災で、死亡した方の原因別割合です

○家の倒壊や家具の下敷きになって多くの方が亡くなっています。

死亡の原因は圧死や窒息死が73%を占めており、

強い地震により瞬時に家屋が倒壊し、その下敷きになって亡くなった方が多く、
また、亡くなった方の96%は当日に死亡されていたという結果が出ています。

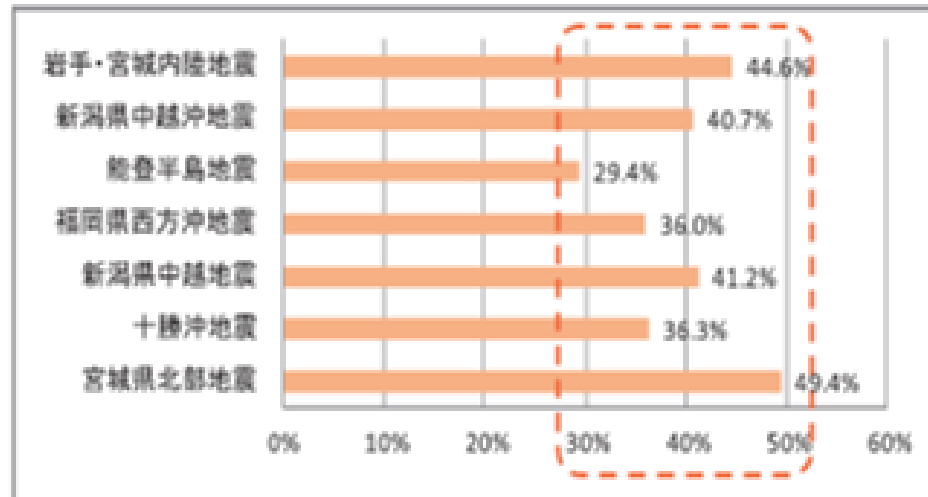
○地震直後の午前6時までに犠牲となった2,222人の死亡原因は

窒息死が82%だったそうです。

○1人暮らしをしているお年寄りの古い家が潰れてしまったり、足が悪いなどの理由
で1階で生活していて、その1階がつぶれてしまったりしたことなどで、多くの方々が
圧死や窒息死で亡くなられたことが考えられます。

○では、過去の地震で、家具の転倒・落下による負傷者の割合はどうだったか見てみたいと思います。

家具類の転倒・落下による負傷者の割合



出典：東日本大震災 家具類の転倒・落下防止対策ハンドブック

家具類の転倒・落下によって3割～5割が負傷

『家具類の転倒・落下による負傷者の割合』

- 今回の東日本大震災では「津波」による被災者が多く発生したため、津波に目がいきがちですが、
- 過去の地震では平均で40%の方々が家具類の転倒・落下により負傷しています。
- さらに地震によりどんな事態が発生するのでしょうか？

地震が起こると ②



No. 11
崩れた国道43号岩屋高架橋から落ちたトラック。

撮影者: 前田耕作
撮影日付: 1995年1月17日午後2時ごろ

『輸送路(ライフライン)の途絶』

- 地震が起きるとライフラインに大きな影響を及ぼします。
- 右下の写真は、地震発生当日午後の様子です。
高速道路も崩れ落ち、トラックが横んでいたと思われるみかんが散乱しています。一般の道も、上下線とも大渋滞となり、救急車や物資を運ぶための緊急自動車の通行の邪魔になりました。
- 個人で被災地に物資を運ぶ人たちも出てきて、被災地に向かう車で道路は大渋滞をしました。本当に必要な車がすぐに被災地に入れない状況が起こります。
- 特に物流に大きな影響が出ます。
- 物資が運ばれなくなるとどうなるのでしょうか？



『物資が運ばれないと』

○道路が通行できないと、食料など生活に必要な物資が運ばれなくなってしまいます。地震発生後しばらくすると、今度は物資が集中して被災地に送られることで、被災地以外でも色々な物が不足するようになります。

○災害発生時には買いたくても、物が無くて買えないという事態がおきます。

○この写真は、平成16年10月23日に発生した中越地震の際の写真です。

(小千谷や、長岡などの被害が大きかったとき)

○左上の写真は、ライフラインの途絶により、水道が止まり、ポリタンクなどを手に、給水車に長い列ができています。

○下の写真は、食料品を買うためにスーパーに長い列ができています。

○皆さんも覚えていると思いますが、東日本大震災発生後、神奈川県内でも、一時水や食料品(お米)を被災地に送ろうとしたり、自宅に備蓄しようとして乾電池などがなくなりました。

※また、地震だけではなく、最近の大雪でも山梨県内では物流が止まり、品薄状態が発生しました。

○ガソリンも被災地に向けて沢山供給しなければならず、神奈川県内でも買えない時期が続きました

○日頃から準備しておけば発災後にあわてて買い物に行かなくても、よかったものもあるはずです。

東日本大震災被災地の様子(岩手県 大槌町、釜石市 4月)



すべて津波にさらわれ、被災地の行政機能が著しく低下した

『岩手県釜石市の様子』

○この写真は、岩手県釜石市の北側にある、大槌町の様子です。

○左上は、大槌町役場だった建物です。津波で、町長をはじめ職員の三分の一が亡くなりました。

○右上の郵便局も、下の病院も津波によって使用できなくなってしまいました。

○今回の災害の特徴の一つとして、津波被害により、被災地の行政機関がマヒしてしまったことがあげられます。

○地元の役所や消防、警察、医療機関などによる救援に頼ることができなくなってしまいました。

東日本大震災被災地の様子

宮城県 石巻赤十字病院



『病院の様子』

○宮城県石巻市にある、石巻赤十字病院の状況ですが、少し高台になっている所に2006年に移転したため、津波の被害を免れ、この地域で唯一残った病院になりました。

○そのためこの病院へ患者さんが集中したため、患者さんが廊下やロビーにあふれ大変な状況が続きました。
また患者さんだけでなく、避難してきた住民の方も多く、右上は避難民の方が廊下で寝ている写真です。

○実際にはこのようになるということを知っていただきたいと思います。
けが人が病院へ押し寄せると、病院はいっぱいになり、対応できる限度を超えてしまうことが考えられます。
まして、人口が集中している神奈川県ではどうなってしまうのでしょうか。
自分達で何とかすることも考える必要があるのではないのでしょうか？

※参考

石巻市の人口	148,821人(H24.12)	横浜の約4%、川崎の約10%
横浜市の人口	3,697,035人(H25.1)	石巻の約24倍
川崎市の人口	1,440,124人(H25.1)	石巻の約10倍

地震が起こると ③

長期にわたる避難所での生活



「避難所での生活を想像してみてください」

『岩手県内の避難所』

- 地震の発生により自宅に住めなくなった人や、食料や物資を求めて避難所に人が集まります。
- これは、東日本大震災での避難所となった岩手県の中学校の体育館の様子です。
- 体育館の避難所は、天井が高く、暖房が効かずとても寒い避難所でした。
- 赤ちゃんを抱えたお母さんは、赤ちゃんが泣いてしまうと周りに迷惑をかけてしまうと思い、大変困ったそうです。
- 劣悪な避難所での生活が仮設住宅ができるまでの期間続きます

想像してみましょう

- 自分の家の中はどうか？
- 生活は？
- 登下校路や家の周りは？
- 津波や火災は？

テキストを入力



神奈川県青少年赤十字減災セミナー

Ⅱ 災害を考える



私たちの身の回りには、多くの災害があります。大きなもの、小さなもの、予測が出来るもの、出来ないもの、防ぐことができるもの、できないものなどいろいろあります。すべての災害を防ぐことはできませんが、正しい知識と普段からの備えにより、自分自身の身を守り、家族や友達を守ることができたり、災害の影響を最小限にすることができます。これを私たちは「減災」とよんでいます。命を大切にする、被害を最小限にするための取り組みを生徒達と共に考えるヒントとして、活用できる資料です。

～その1 災害を考える～

対象 小学校高学年～中学生 所用時間：15分～50分

1 災害を考える

ねらい 災害について考えることから、防災、減災に対する関心や意識を高めると共に、ワークを通じて、自分たちの身近にどのような危険があるのか、また知らない事について、更に自分たちができることを考え、解決するモチベーションを持たせることがこの単元のねらいです。手順1 まずは、災害って何かを考えて見ます。災害にはどのようなものがありますか？

また、社会、理科などの関連分野との結びつきについても知る機会となります。

展開 ワークシート1～4を使用して展開します。一つ一つのワークシートには設定時間はありません。対象のクラスや集団がとれる時間で、行えるようになっていきます。また順序なども特にありません。指導者の工夫でじっくり考えさせることも、あらかじめヒントや要素を提供して時間を短縮したり、既習の内容をスキップすることも可能です。

理解のポイント

1 災害の原因と結果を考える中で大きく二つの要素があることに気づかせることがポイントです。

①一つは災害の原因で、自然要素の高いもの、人的要素の高いもの、更に特殊災害のように、発生や対応に特殊な状況が生まれるものです。このことは、防ぐことのできる災害、予知予測により軽減できるもの、事故防止を初め、発生を抑制することが出来るものなどに分けることが出来ます。

②もう一つは、人の生活です。どの災害もそこに人の営みがあるために、災害となります。このことは、人々の生活の場がある限り、様々な災害が起こり、また、二次、三次、そして被災後も長く復興に時間を要する要因となります。

2 災害から逃れることはできませんが、被害を減ら減災はできます。

たとえ多くの地震や気象災害のある場所でも人々がくらしをあきらめ、その地を遺棄することを選択することは容易ではありません。日本の様に地震が多い国、度々風水害に襲われる国や地域、雷害に見舞われる地域などありますが、その中で人々はいかに災害と向き合ってきたかを学び、今の時代に問われる防災・減災について考えること、自ら身の回りの危険を予見し、対応を考えるを養うことで、減災に有効な力を培うことができます。

実際の減災害学習の展開

手順1 この時間で学ぶことを確認します。

手順2 ワークシートのうち、1～2つを実際にグループで作業をしたり、発表したりして課行います。年令や理解度に応じてワークを選択する、ヒントや選択肢を用意する、二次的な展開に備えて、模範解答を容易することができます。子供達の発意でない部分も未知の要素として印象づけることにより新たな知識と考え方の習得を図ることができます。

手順3 まとめとして、自分たちができること、考えていかなければいけないことを確認すると共に、プログラム前と後での意識の変化に気づかせ、啓発の重要性にも気づかせます。

ワーク 1 災害を特徴別に分類してみよう

ワークシート	自然災害	人工的な災害	特殊災害
限定災害			
広域災害			

土砂崩れ 交通災害 船舶事故 紛争 竜巻
 津波 水害 原子力災害 雪崩 地震
 洪水
 鉄道事故 台風 ハリケーン
 飛行機事故 火災
 テロ

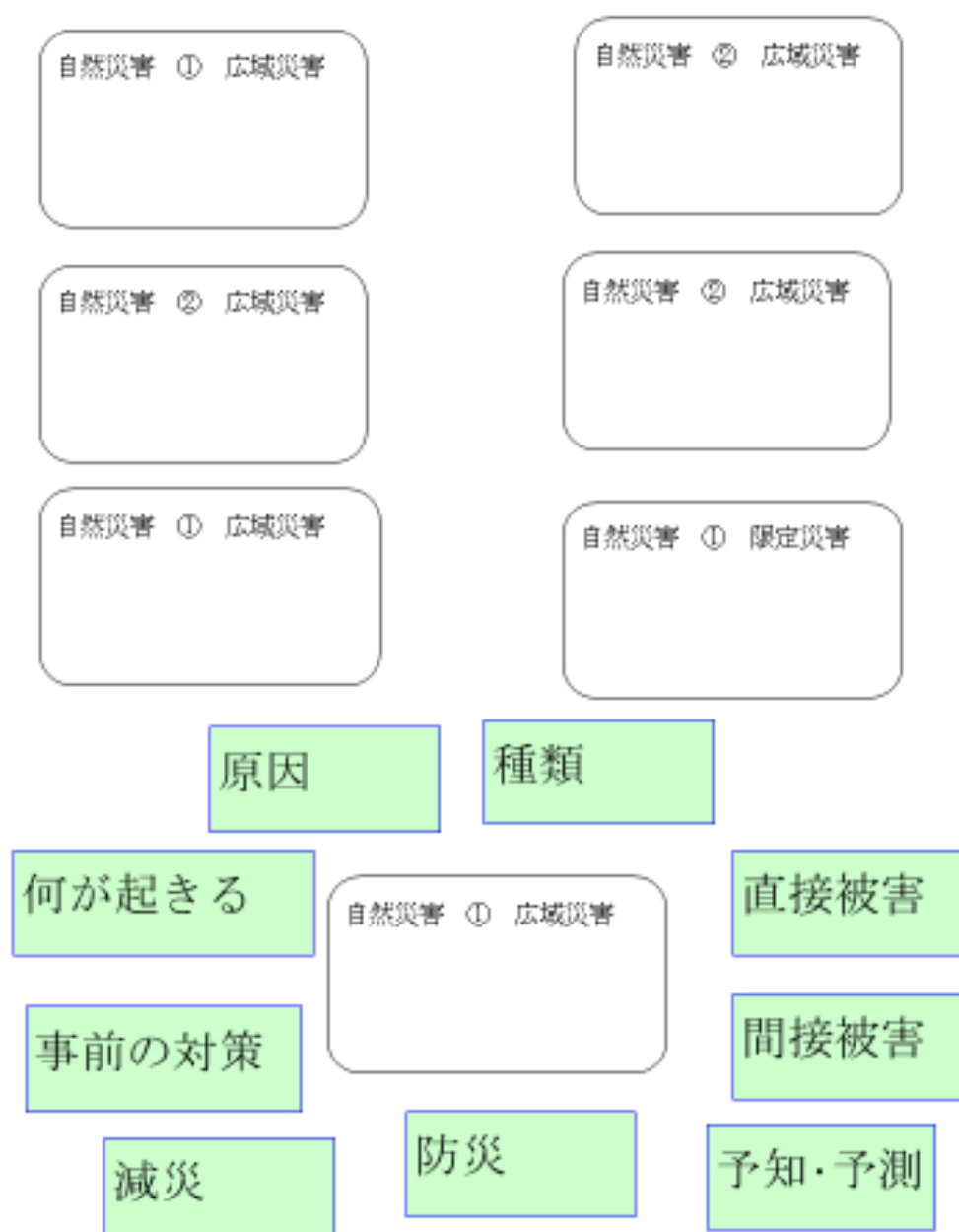
選択肢

模範回答

	自然災害	人工的な災害	特殊災害
限定災害	土砂崩れ 水害 洪水 竜巻 雪崩	火災 交通災害 労働災害	飛行機事故 船舶事故 鉄道事故 化学事故
広域災害	地震・津波 火山噴火 台風・ハリケーン	原子力災害 紛争 環境災害	テロ

まずは、災害の種類をたくさんあげた後、分類を行い、更に各々の災害について、原因や予防、防災、減災について考えます。

ワーク2 災害にはどんなものがあるのか

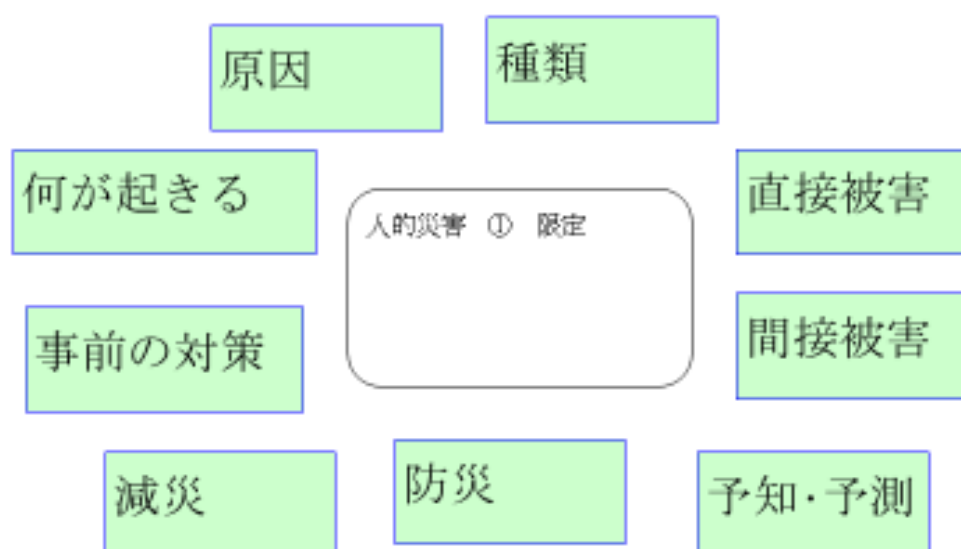


災害にはどんなものがあるでしょうか。あげてみたら、いくつかの災害について、災害のもつ特徴やそこから起きる被害、防災の現状について知っている情報を共有し誤った情報がないかどうか検証します。

また、多くの自然災害は予知が難しく、発生自体を避けることは出来ない一方、そこに人が生活している社会の存在が被害を生むことを理解します。

ワーク3 災害は自然災害だけ？

人的災害 ① 広域災害 	人的災害 ① 広域災害
人的災害 ② 広域災害 	人的災害 ② 広域災害



自然災害と異なり人的な災害は人間の社会生活の営みの中で発生刷るようになったものがほとんどです。自然災害でないために、予防や予測が可能な一方、便利な生活や複雑な仕組みなどに対応出来ずに事故に至るものも少なくありません。

ワーク2 災害にはどんなものがあるのか



災害にはどんなものがあるでしょうか。あげてみたら、いくつかの災害について、災害のもつ特徴やそこから起きる被害、防災の現状について知っている情報を共有し誤った情報がないかどうか検証します。

また、多くの自然災害は予知が難しく、発生自体を避けることは出来ない一方、そこに人が生活している社会の存在が被害を生むことを理解します。

ワーク3 災害は自然災害だけ？



自然災害と異なり人的な災害は人間の社会生活の営みの中で発生刷るようになったものがほとんどです。自然災害でないために、予防や予測が可能な一方、便利な生活や複雑な仕組みなどに対応出来ずに事故に至るものも少なくありません。

ワーク4 派生要因を考える（魔方陣・KJ法を使って）

高学年では、魔法陣を使って関連ある項目を、ブレンストーミング風に出しながらまとめ、いく過程を通じて災害の特徴を捉えることも可能です。もちろん、ポストイットなどを使ってKJ法的にまとめることも可能です。魔法陣とテーマ設定をした場合はテーマと項目数が決まっているので、ある程度方向性を持って、考えることが出来る一方、KJ法では自由な発想で様々な展開が考えられますが、方向が偏ることもおあります。ファシリテーターの存在などとも併せて、対象集団の様子で適宜手法を選ぶことが必要です。

被害	原因	防災
人への影響	災害の種類	何が起こるか
社会への影響	できること	

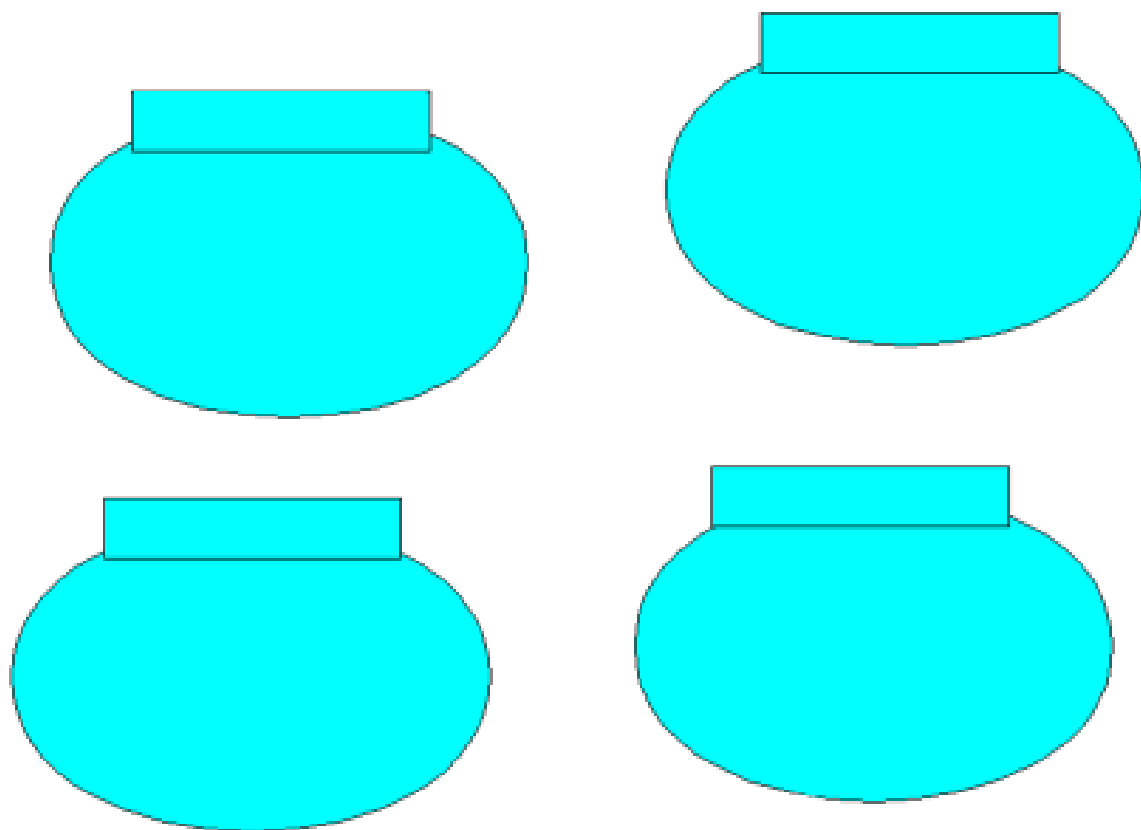
人的	家屋	経済	地震変動	マントル	プレート	断層	地震予知	避難訓練
流通	被害	財産	人の生活	原因	定期的	緊急連絡	防災	防衛環境
土地							消防	避難場所
恐怖	知人・肉親の被害	けが	被害	原因	防災	揺れ	倒壊	火災
家屋喪失	人への影響		人への影響	地震	何が起こるか		何が起こるか	津波
生活基盤破壊		避難生活	社会への影響	できること	減災	ライフライン切断	流通停滯	土砂崩れ
復興に時間			知識				正しい知識	定期的訓練
治安	社会への影響		連絡網	できること			減災	
生活費			持ち出し品	救急法				



ワーク4 派生要因を考える（魔方陣を使って）

			被害	原因	防災			
			人への 影響	災害の 種類	何が起 こるか			
			社会へ の影響	できる こと	減災			

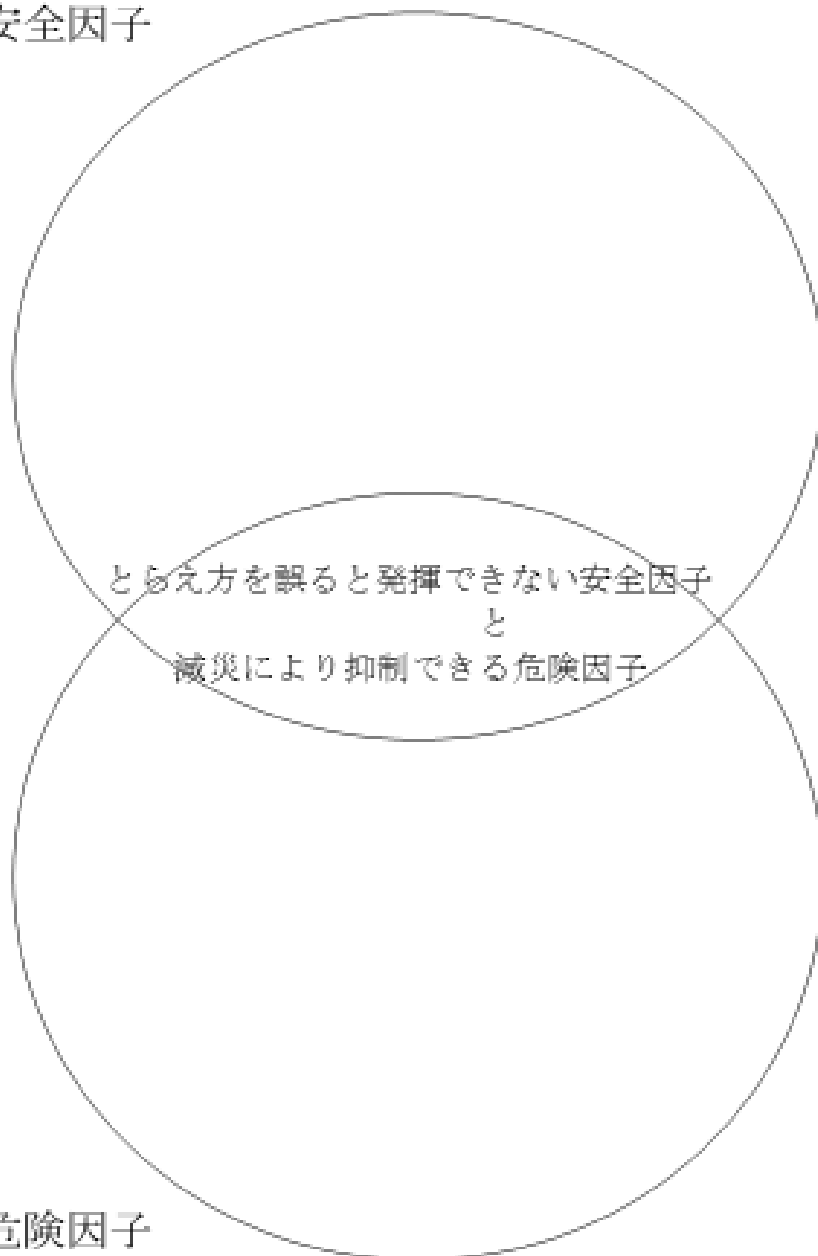
ワーク4 派生要因を考える（KJ法を使って）



ワーク5 安全因子と危険因子

教室や学校、地域などを対象に、安全要因と危険要因を列挙して見ましょう。個人で出来ること、集団や組織で対応すべきもの、行政の役割なども考慮してみましょう。

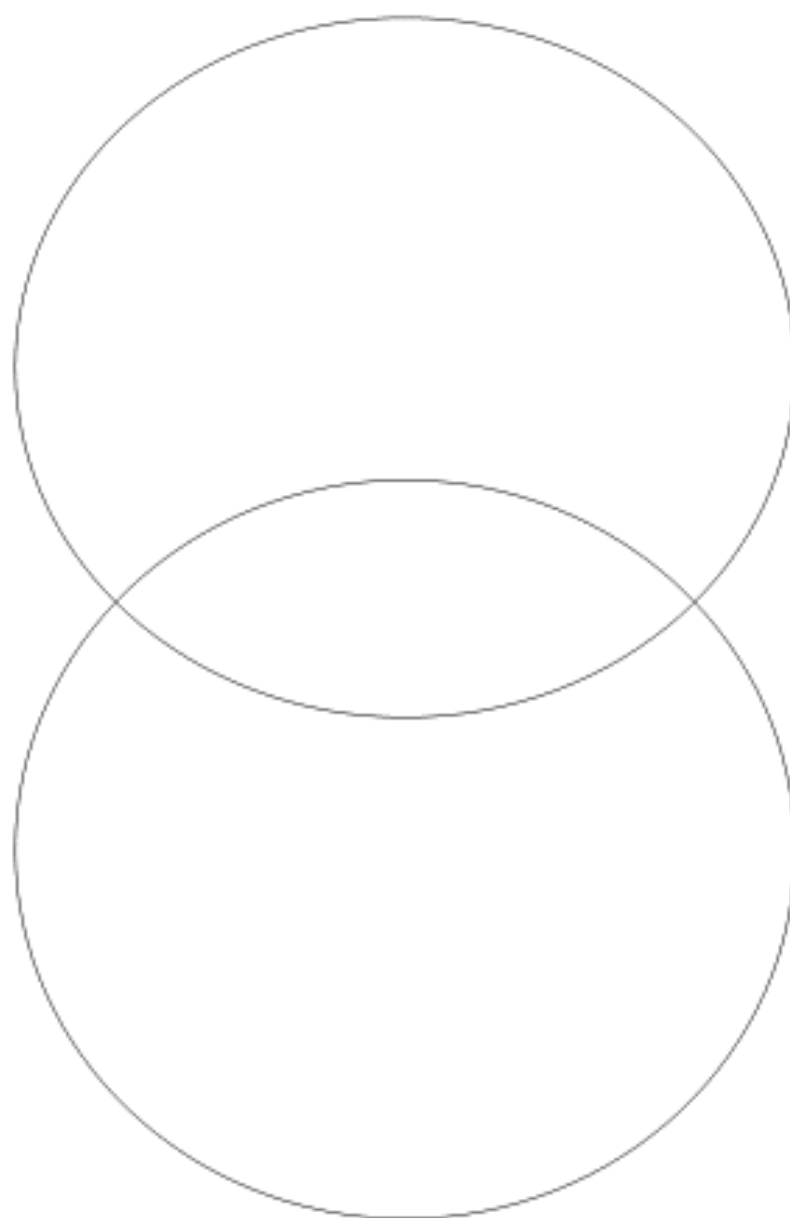
安全因子



危険因子

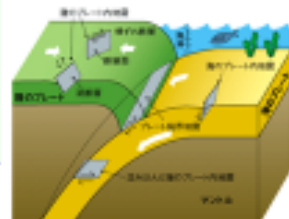
ワーク5 安全因子と危険因子

教室や学校、地域などを対象に、安全要因と危険要因を列挙して見ましょう。個人で出来ること、集団や組織で対応すべきもの、行政の役割なども考慮してみましょう。

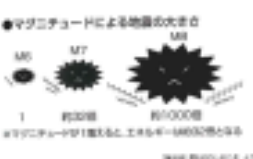


～ 災害を考える～

原因: 地殻の変動 マントル対流・プレートの移動と沈み込みによるひずみの蓄積



種類: 海底・内陸型
震度(揺れ)と地震の大きさ(マグニチュード)

[illegible]

自然災害 ① 広域災害



地震

予知・予測：一定のレベル
東海地震・南海トラフ地震
など危険域における観測態
勢と発生の子見の可能性。
緊急地震速報（揺れ到達数
秒前）

場面想定：学校（授業中・休み時間・昼・校外学習・通学途上等）家・塾・駅・電車・バス・繁華街

直接被害：揺れによる建物の崩壊・地割れ等
間接被害：津波や火災の発生、交通・物流の遮断・ライフラインの広域な遮断、長期の途絶

原因

○地震は地球を取り巻くプレートと呼ばれる地球の表面がわずかにうごいていることから、そのプレート同士がぶつかり合うところ、特に一方が沈み込んでいるところや逆にせり出している部分の地殻の接点にエネルギーがたまり、解放時にプレートがずれることから起きるとされています。プレートの位置や方向、動く速度がわかっていることから、様々な観測により地震の起きやすい場所や大まかな予測が現代では狩野になっている所もあります。

○地震は地球の自然現象であり、防ぐことは難しい一方、人間にとっては、生活の場、居住や働く場に大きな影響を与えます。また新生として地滑りや地割れ、津波などを引き起こしますが、そこに人が生活していなければ地面が揺れるだけともいえます。長い地球の歴史の中で火山や地殻変動は地質的には現在の地形を形作ってきた原動力ともいえます。



種類

○地震は様々な分類ができますが、地震の起きる要因によるもの(火山性地震など)、揺れ方による分類(P波に寄る縦揺れS波による横揺れ、直下型、プレート型、新家の深遠に寄る分類など)また揺れ具合による震度による大きさの分類と震源地でのエネルギーの大きさを表すマグネチュードと呼ばれる指標があります。一番大きな地震を本震とし、その前兆を予震、また、事後に起きる本震より小規模な地震を余震と呼んだりします。

○発生の時間帯については諸説ありますが、特異な時間帯に起きる科学的根拠はありません。従って時間を特定した予知は現段階では想定できません。

何が起きる

○地盤の揺れが大きな特徴です。震源に近い方が大きく揺れがちですが、深度や地盤の構成により、離れた場所で大きく揺れることや初期に観測されるP波(縦揺れ)とその後起きるS波(横揺れ)とで構成されていますが、近年伝わり方により遠隔地で長周期の揺れが高層建築の増加に伴い指摘されています。

○揺れ自体は安定していると考えた地面が揺れることから恐怖を感じ安いです。地割れや地滑り、土砂崩れがなければ、揺れの収まりと共に変化はないため、そこに人が生活をしていなければ特段被害が発生しない、逆に人が揺れを前提とせずに生活している場所で大きな

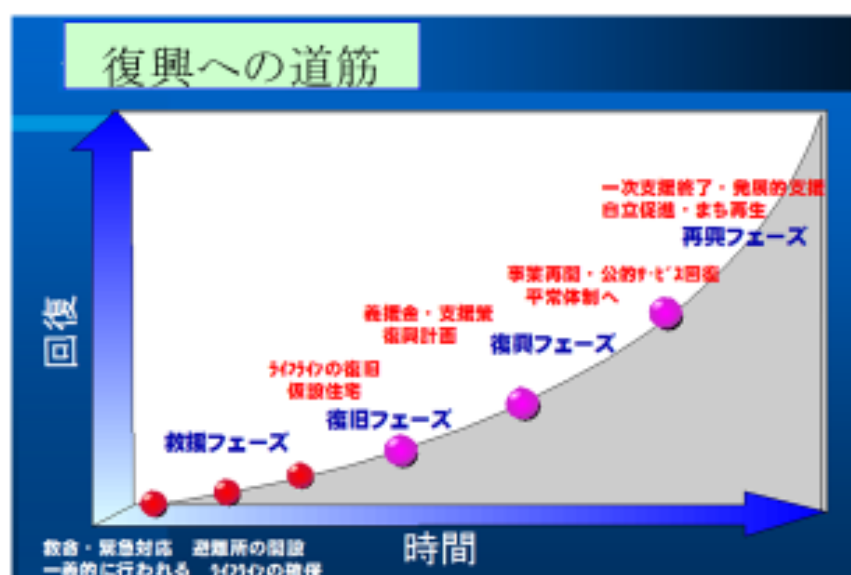
被害が発生します。

○また、地震により、交通機関、水道、電気、ガスなどのライフライン、物流などが停滞することによる影響も大きく、地震そのものよりその後の復旧が大変な場合があります。

○二次的には東日本大震災や奥尻島などのように津波による被害、建物の倒壊、火災などは二次的な被害としてよく知られています。

○地震の場合、その後の復興への過程は長く困難になる場合があります。阪神大震災、東日本大震災も10年単位での復興が行われています。特に生活が平常に戻るために必要な支援を考えると、また、復興が早く行われるためにも災害発生前の減災が重要なことも学びます。

事前の対策



Ⅲ 災害前に準備しておくこと

非常持ち出し品と連絡方法（学級活動）

(1) ねらい：地震災害などへの備えとして、非常持ち出し品や備蓄物資の準備、家族との連絡方法について考え、日頃からの備えの重要性を理解する。

(2) 所要時間：45分

(3) 資材・資料：災害発生時の様子を知らせる写真（資料1）、非常用持ち出し袋を描いた紙グループ数分、付箋1人10枚程度、非常持ち出し品の例（資料2）、家族との連絡方法を紹介した資料（資料3）、我が家の減災会議開催計画書1人1枚

(4) 人員：指導者1人

(5) 展開

時間	学習内容・活動	指導上の支援・留意点等
0	1 災害発生時の様子を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・生活必需品の不足 ・ライフラインの停止 ・けが人や病人の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時目標の一つを伝え、災害発生時に持ち出すとよいものは何かを考えながら見るように指示し、資料1を提示する。
5	2 非常持ち出し品について、グループで話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・6人程度のグループでどんなものを持ち出せばよいかを個々の考えを出し合う。 ・避難の妨げとなることを防ぐためにグループで優先順位を考え、必要最小限に整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに模造紙半分程度の紙に描いた非常用品持ち出し袋と付箋を配付する。 ・持ち出すものを付箋一枚に一個ずつ書き、持ち出し袋の中に貼り付けるようにする。 ・優先順位の低いものは袋部分から取り出し、袋の外側に貼りかえるようにする。
15	3 各グループから、選んだ理由を含めて、持ち出し品を発表する。 <p>4 全体を見合い、共通するものと違うものがあることに気づき、その理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の人数、年齢、病人や障害の有無 	<ul style="list-style-type: none"> ・袋に残ったものを「一次持ち出し品」、袋の外のものを「二次持ち出し品（非常備蓄品）」とする。 ・二次持ち出し品と関連づけ、学校や町内会などに備蓄倉庫が置かれていることを知らせる。 ・参考例として、資料2を提示する。 ・非常持ち出し袋の保管場所を決め、家族が知っていることが重要であることを、優先順位の一位は命であることを強調し、持ち出しはその余裕がある場合に限ることを補足する。

30	<p>5 家族が離ればなれの時に災害が発生し、通常の電話が使えない場合の連絡方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ避難場所を決めておく ・メッセージボードの利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の連絡方法を用意しておくことと、事前の家族の取り決めが大事であることに気付かせる。 ・災害用伝言ダイヤル「171」を紹介する。(資料3)
40	<p>6「第〇回我が家の減災会議」の開催計画を立てる。</p> <p>テーマ；非常持ち出し品と家族の連絡方法</p> <p>(日時と参加者を決め、提案の理由を書くところまでとする)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の減災会議は事後、家庭での活動とする。各家庭には事前に文書で協力を依頼しておく。 ・後日、会議で決まったこと等を書き込み提出させる。
45		

資料 1 地震が起ると



No.11
崩れた国道43号岩屋高架橋から落ちたトラック。

撮影者：前田耕作
撮影日付：1995年1月17日午後2時ごろ



避難所の様子



資料2 非常持ち出し品の例 (日赤減災セミナーより)

日頃からの備え②

非常持ち出し品(一次持ち出し品)

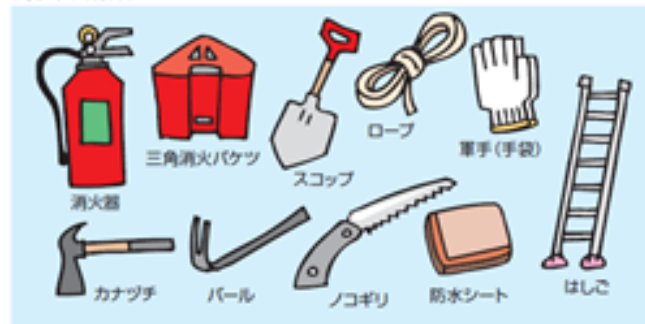


日頃からの備え③

非常備蓄品(二次持ち出し品)
(非常持ち出し品に加えて)



防災準備品



家族や友達の無事を確認するには？①



家族や友達の無事を確認するには？②



- 連絡方法を決めておく
- 通話や伝言は最小限に



資料4 減災会議開催計画書（例）

第〇回減災会議開催計画書

〇年〇組 名前

- 1 日 時 月 日（ ） : ~ :
- 2 参加メンバー
- 3 議 題 非常持ち出し品のリスト作りと家族の連絡方法
- 4 議題提案の理由

*ここからは会議開催後に記入して提出してください。

【会議で決まったこと】

（1）第一次持ち出し品リスト

〇△×

〇△×

〇△×

〇△×

〇△×

（2）第二次持ち出し品（備蓄品）リスト

（3）非常持ち出し袋の置き場所（ ）

（4）家族の連絡方法

- 避難場所（ ）
- 連絡方法（ ）

（5）その他

【持ち出し品の点検】○月○日現在

上のリストに次の記号で点検結果を入れてください。 ○…十分OK △…やや不十分 ×…不十分

【我が家の課題】

【今回の学習をふりかえって】



Ⅳ 教室の中の安全チェック

～ハザードマップ作り～

ねらい：

- ・日ごろ生活している教室を改めて見直し、その危険性に気づいたり対応を考えたりすることで、いざという時の被害を小さくすることにつなげていく。
- ・なぜその場所が危険であるのかという理由を考えることで、教室以外の通学路や自宅などに対しても同じように危険箇所を把握できるような応用力を身に付けさせる。
- ・家族など自分以外の人にもその情報や意識を伝えることで、地域防災力を向上させる。

２、時間：５０分

３、展開

	活 動 内 容	備 考
導入	○大きな地震が起こるとどうなるか考える。 ・揺れる ・棚から物が落ちてくる	
	○これから行うことを知る	付箋（１人１０枚程度）を用意。
展開	○教室内の危険な個所を見つけて付箋を貼る。 ・テレビ ・本箱 ・窓ガラス	時間や児童の状況によっては、「落ちる」「たおれる」など、どう危険なのかを付箋に書いて貼らせる。
	○表に改善方法を記入する。 ・地震の時には、付箋の箇所から離れる ・固定してもらう	児童の状況によって、個人またはグループで取り組ませる。
ま と め	○まとめをする ・同じような危険が、通学路や家にもあるかもしれない。よく見てみる。家の人に頼む。	

教室の中の安全チェック

大きな地震が 来た時のことを 考えてみよう。

教室の中に きけんな場所は ないかな？

教室の中に あぶない物は ないかな？



きけんな場所や物を見つけたら、ふせんを はろう。



どうして あぶないのかな？

わけを 考えよう。

教室の中の安全チェック

ふせんを はったところを まとめよう。



きけんな 場 所 ・ 物 は？	どうして？	どうしたらいいかな？	
		自分は？	大人は？



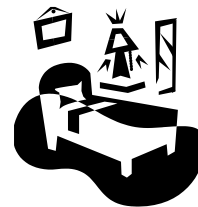
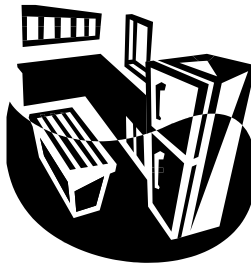
• 教室以外の場所は だいじょうぶ？

ろうか・しょうこう口
通学路・公園



よく見てみよう。 考えてみよう。

• 自分の家は だいじょうぶ？



家の人と よく話し合おう。 たのんでみよう。



V 健康安全プログラム（救急法実技）

ねらい：小学生が自分たちでできる応急手当や救命手当を学ぶことで、他人への優しさや命の大切さ、安全に対する意識を深めるとともに、実践できる能力を身に付ける。

所要時間：授業１～２コマ分（４５分～９０分）

資材・資料：三角巾、ガーゼ、ビニール袋、毛布、会場内のイス、
蘇生法訓練人形、AED トレーナー、応急手当の小冊子

人員：健康安全プログラム指導者

時間	項目	展開内容
	○応急手当の注意事項 ○出血を止める（止血） ○三角巾の使い方 ○搬送 ○協力者を求める ○心肺蘇生と AED ○総合実技 ○まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身の安全確保、二次事故の防止等 ・ 直接圧迫止血＋患部の高揚 ・ 感染予防のためビニール袋等の応用 ・ 前腕の吊り ・ たたみ三角巾で前腕の包帯 ・ 併せて保護ガーゼの意味と重要性を伝える ・ 肩を貸す（１人で） ・ ドラッグキャリー（１人で） ・ イスを使って運ぶ（２人で） ・ 毛布による応用担架（６人以上で） ・ 生の徴候の観察 ・ 「意識の確認」から救急車要請まで ・ 構成と技術の概要を紹介のうえ実演してみせる ・ 通報・衣服を脱がせる等今でもできることを伝える ・ 更に AED の取り扱いも可能であることも伝える ・ 災害発生を想定してロールプレイを体験させる ・ 小冊子配布 ・ 日赤 HP から実技が学べることを紹介



Ⅵ 避難所体験

「災害発生後にできること」

ねらい：災害（地震・台風など）が発生し避難所での生活を余儀なくされた時、避難所での生活ではどんな気持ちがするのか、どんな苦痛があるのかを予測し、その時に自分にできることを考える。また、あらかじめ苦痛を軽減するための備えをすることの重要性を理解する。

所要時間：45分

資材・資料：阪神淡路大震災・東日本大震災での避難所の様子の映像
段ボール・1. 5m×3mのすずらんテープ・ビニールテープ
状況カード・イベントカード・避難所体験ワークシート

人員：指導者1人

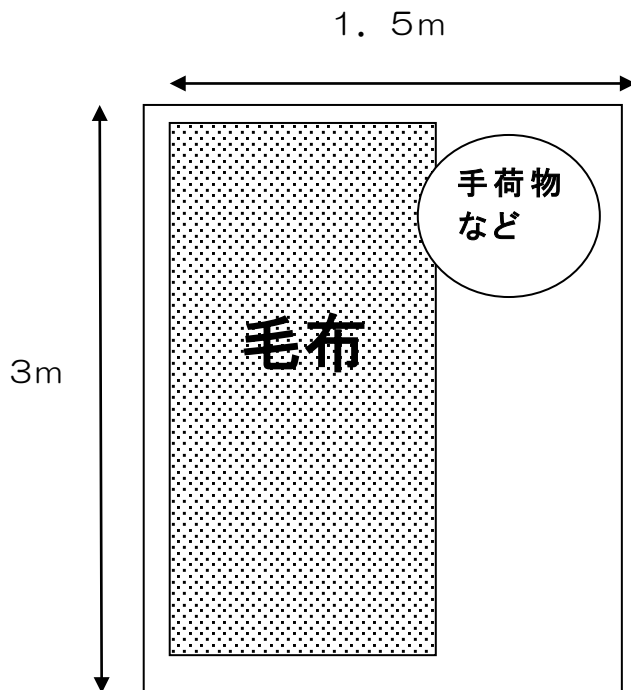
展開

時間	学習内容・活動	指導上の支援・留意点等
0	<p>1 災害の実態を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の様子 ・ライフラインの停止 ・けが人の発生 ・家族が離ればなれになる...これを知らせる映像は難しいかもしれない 	<ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ－1を短縮して行う。(地震が起ると②③等)減災セミナーの資料を活用するのも一案 ・この時間の目標を伝え、避難所ではどのようなことがおこっているのか(どんなことが不便で、苦痛に感じるか)、どんなものが必要なるかを考えながら見るようにする。
5 20 3 5	<p>2 体験Ⅰ「教室が避難所になったら」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机を後ろに下げ、班ごとに(6人)でどのくらいの場所があれば、寝泊まりできるか考えて、場所取りをする。 ・班の一人が床に寝てみる。 ・全員が寝られるように工夫してみる。 <p>3. 体験を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人でワークシートの1. 2.に記入した後、班ごとに意見交換する。 ・3の改善のために必要なものについて話し合う。具体的な改善案を記入する。 <p>4. 体験Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改善策をとりいれて、避難所を開設しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮する ・床に寝た状態で、「ここは避難所」と想像ができるようにする。 隣の人が知らない人だったら、真っ暗で一晩過ごすとしたら、などなげかける。 ・広さは不足しているので、全員が寝るのは困難と判断した段階で体験終了とする。 ・ワークシートを配布し、個人で1. 2の振り返りをする。(床で作業する) ・改善に必要なものは、不便だったことのほかに、気持ちに注目して考える ・道具は、段ボール・ビニールテープなどを準備しておく (※時間によっては、体験Ⅱはカットする。 その場合は、「◎避難所で私ができること」を考える時間を増やす。)
40 45	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート4に体験Ⅰと体験Ⅱを比較してみての感想を記入する。 <p>◎学校が避難所になったら、私ができることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体等では避難所運営会議や避難所開設訓練などが開かれていることを知らせる。 ・自分たちの学校にも、「備蓄倉庫」があること、また、どんなものが入っているのか紹介する。

避難所体験ゲーム

体験Ⅰ 実際に床で寝る体験をしてみよう

避難所での一人のスペースは1.5m×2.0m程度とされています。



- ① 机を後ろに下げて、このスペースに寝てみる。
(スペースはテープを参考にしましょう。正確でなくてかまいません)
- ② 班ごとに場所取りをしてください。
- ③ まずは、一人だけ寝てみます。
次に、一人ずつ人数を増やしていきましょう。
- ④ 班ごとで集まって、
 - * 床に寝た時にどんな気持ちでしたか、人がどんどん増えていったときどんな気持ちでしたか、意見を出し合いましょう。
 - * 改善のために、あると良いものを出してみましょう。
- ⑤ 改善案をもとに、実際にやってみよう！！
(段ボールなどをひいて寝る、通路をあける、あらかじめスペースを決めるなど)

体験Ⅱ

想定：1週間前にマグニチュード7の大地震がありました。倒壊した家庭も多くなり、小学校に避難所が開設されています。

ライフライン（電気・ガス・水道）は、まだ回復していません。

① 役割の決定

2班が一緒になって活動します。（8～10人くらい）

カードで役割を決めます。

カードを後ろ向きにして、一人1枚ずつ配布してください。

自分の役割が書いてあります。カードは見せないで、自分の状況を伝えてください。

（役割での自己紹介）

② 体育館の見取り図に自分の場所を確保しましょう。

一緒に家族いる人などは、一緒にスペースを取らなくてはならない場合は、その分の場所も確保してください。

場所の確保は、班の人と話し合いで決めてください。

③ イベントカードを引く

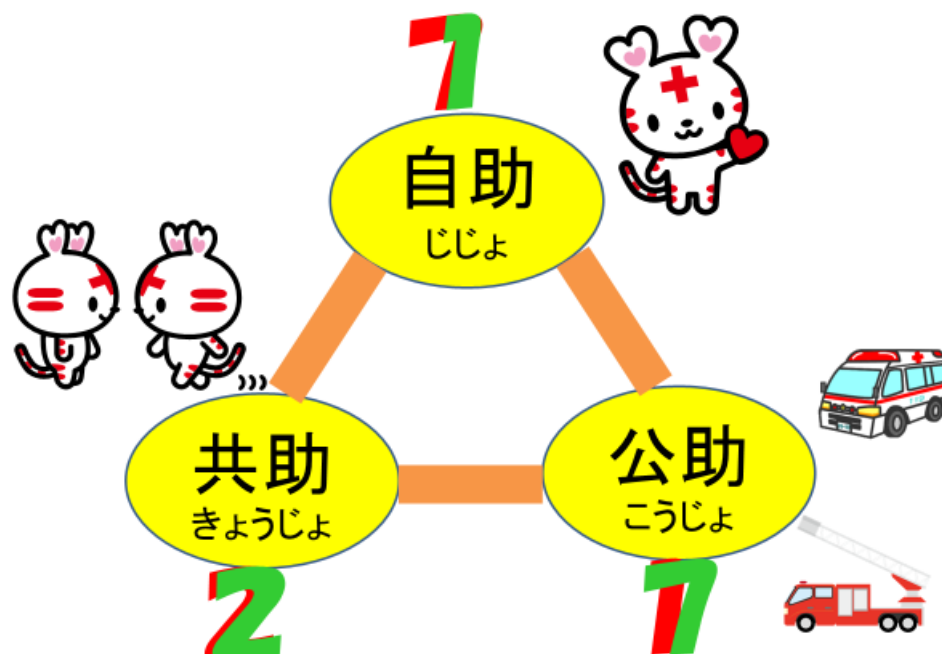
それぞれのイベントに対応してください。



神奈川県青少年赤十字減災セミナー

VII まとめ

神奈川県青少年赤十字指導者協議会



減 災 と は

災害の発生を阻止することはできない。
しかし、事前の準備で
災害時に発生する被害を
できるだけ少なくすることはできる。

減災 は 事前の備えから